
平成 30 年度 交通に関する江崎地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 2 月 8 日（金） 10：00～11：30

場 所：田万川コミュニティセンター

事務局：萩市、田万川総合事務所、日本工営（株）

ご参加：住民の皆様 48 名



1. 開会

事務局：開会の挨拶（省略）

2. 挨拶（萩市商工政策部長）

山本部長：（省略）

3. 議事

（1）（資料 1、2）

事務局：資料 1、2 を説明（省略）

意見交換：

参加者：田万川にお住まいの方は、買物、通院で、益田に行くことが多い。特に通院では、午前中の受診時間があるので、それらに合わせる等の配慮が必要。JR でも、石見交通でも、経営が厳しいのは理解できるが、このようなものも踏まえて将来の形を考えないと難しい。市の財政難とも連動しており、（公共交通に対して）財政がついていかないと、負担を負うのは交通弱者となる。また、バス停から遠いところにお住まいの人や、歩行が困難な人に対応した運行形態、例えば自家用有償旅客運送などの形が近いと思われるが、今回の計画を早くまとめた上で、これらの施策を現場に落としとして頂きたい。

事務局：路線バスは維持する必要がある中で、財政難もご指摘のとおりである。そのような状況で、効果的な運行をどう考えていくか。例えば田万川には須佐・田万川循環バスがあるが、利用は少ない。また利用が少ないということは、利用しにくいという部分もある。そのような状況で、それぞれの地区間は、場合によっては市や NPO 等が運営することなども踏まえ、しっかりとつなぐ必要があると思われる。例えば路線の幹線だったら、地域間の連結をどのように確保しているか、住民の生活に密着した形で、効果的な融合方法について検討する。また高齢化の中で、バス停に遠い

人についても、地域に密着した形で、ぐるっとバスの運行や、住民間の支え合いなどの取組も含めて検討する。本計画は本年12月に策定予定。ただし、先般の須佐のタクシーの廃業については、昨年12月から直ぐに、ぐるっとバスの体系を見直した形で対応している。田万川地域でも4月からぐるっとバスの見直しを検討していく。できるところから対応を進めていく予定である。

参加者：田万川、須佐のタクシー事業者の撤退について、他の地域のタクシーなどで対応できないか。萩近鉄タクシーは、阿武町に営業所がある。ぐるっとバスの運用が、緩和されて乗りやすくなるのはいいが、江崎から小川まで距離もあるため、ぐるっとバス2台で対応できないか。または、普通自動車2台で対応できないか。例えば、月水金の空いている曜日を、その車がタクシーにかわるなどの方法が考えられないか、あるいは自家用有償旅客運送で対応するなど、検討頂きたい。これらの取組を地域の人に対応できるとよい。また空き時間、有償で、20時や21時の夜の運行もできるとよい。NPO法人の活用や、ボランティア運転手を雇う方法等、検討いただきたい。

事務局：タクシーについては、その配置対応ができるかどうか、タクシー事業者を確認する。ぐるっとバスの1台運行では、ご指摘の通り限界がある。普通車で輸送も今回提案頂いた。その辺も含めて、要は、それぞれの地域で高齢者の足の確保を図りたいと考えている。また夜の送迎のための運行者確保についても、今後検討したい。

参加者：昨年7月、石見交通のダイヤ改正があった。江崎の住民にとっては優しい改定だった。朝一番がJR益田駅止まりだったものが、益田赤十字病院の玄関前に止まるようになり、利便性が向上した。また、二条のバス停、小島のバス停も従来通り、8時17分着になった。朝6時49分発の日曜祝日運用の便もある。大変助かっており、週3回、益田赤十字病院に通院している。積雪時も助かった経緯もある。一方で、いずれ住民主体による自家用有償運送を進める時期がくる。田万川には、田万川21という組織があるが、運転手の担い手確保が厳しい状況で、消防団でこれから住民主体の運送の担い手がいないか、検討するなどの動きもみられる。交通安全協会、江崎、小川、須佐、弥富も含めて、若い担い手を確保できないか検討している。

事務局：行政、交通事業者及び住民がより一体となった交通体系を作る際、どうしても担い手が必要となる。高齢者の方が高齢者を支える時代になっている。介護保険制度を活用しつつ、総合事務所管内で、運転手を登録して運行しているが、担い手の確保は重要な課題である。NPO法人たまらぼなどの活動主体もあるが、担い手については、このような主体でも課題があると思われる。担い手をどのように確保していくか、大きな課題となる。

参加者：高齢になると、車での移動が主体となる。そのような高齢者がタクシーを利用してはいたが、廃業となった。タクシーなら細々と移動できた。利用者にとっては価値のある交通網だった。市営でのタクシーを復活させてほしい。(市営タクシー実施に対し)体力が必要なのは承知の上である。高齢者や障がい者でタクシーが急に必要な人もいる。

事務局：車が運転できている人も、将来不安を感じている方も多い。それらも踏まえて交通体系を考えているが、江崎地区の社会福祉協議会でも、住民と話し合いを踏まえながら検討を進めておられる。タクシーについては、運行事業者は過疎地域で、利用者が少ないと、事業運営が成り立たない現状がある。タクシーは行きたいところにいける便利な足であるが、その代替手段を直ぐに確保できない難しい状況である。タクシーの代わりとまではいかないものの、公共交通として、ぐるっとバスの見直しを図っている。

参加者：萩市だけでなく、日本全国の課題である。全国各地で、様々な施策を実施している

のではない。全国ではどういったことをしているのか、手助けになると思われる。そういったもの調べて、こういった方法が実施できるのでは、というものを示してはどうか。また江崎の公共交通を利用するものは何人いるのか、必要としている人間がどの程度いるのか、そのあたりも検討して頂きたい。

事務局：過疎地域の公共交通の確保は、全国的な課題である。その中で、例えばNPOが代わりに交通事業を実施し、あるいはそれぞれの自治会連合会で自家有償運送で対応している事例もある。全国の事例も参考にしながら検討を進める。また江崎の中で何人ぐらい、公共交通を必要とするのか、あるいはどの程度運転免許を保有しているのか、調査しているので、今後確認したい。

参加者：NPO法人たまらぼでは、高齢者の移動支援を行っており、去年の9月より運用開始、80～90歳台の人が登録し、7人が利用しており、また登録者も増えている。年間8万円を頂きながら対応している。地域では、家族の送迎で対応している人もいるが、移動を助けるのも高齢者という現状もある。中では、少し安くても良いので、料金ありで送迎していただければ、との意見もあった。江崎では、地区限定で、たまらぼによる車での移動支援を実施しており、また小川地区でも同様の支援を実施しているので、これらの連携も重要である。ぐるっとバスの運行では施設「ぬくもり」まで来て頂けるともっと利便性は向上する。また、ぐるっとバスでは、現状の大きさでなくとも、もっと小さい車両でも運行してもよいのではないかと。

提案だが、ボランティア活動にも限度がある。たまらぼの利用者から1000円を徴収し、700円をボランティアへの謝礼、300円を管理費に当てているが、地域の力で支える方法が必要である。ぬくもりを運営しながら、対応しており、ボランティアでのエネルギーを割いている。どこまで体制を確保できるか、悩ましいところである。田万川ならではの対応、田万川のこういったサービスだったら、地域を救えるような仕組みがあるとよい。

田万川地域は、高齢者が多いので、特区という形で、田万川らしい対応ができないか。萩市として現実的にできないか。シンプルに考えてほしい。足が不自由なので、我が身のように考えて、どのような体制が必要か検討していただきたい。

事務局：実際に、高齢者支援の活動されていること、ありがたく思う。田万川の介護保険事業で実施している、その登録者数が増えている。介護が必要になる前の人を支援するために取り組んでおられるので、高齢者のニーズを踏まえて、そういった仕組みが必要かを検討する必要がある。ぐるっとバスのぬくもりへの対応は、総合事務所と対応を検討したい。またぐるっとバスは、利便性を考慮して、須佐、田万川の枠を外した対応を検討している。

有償ボランティアで支える仕組みについても、実証的な取り組みで一度対応することも考えられる。行政としては、様々な主体や住民と連携しながら取り組みができればと考えている。

参加者：これからの当面の交通体系は、住民と行政が意見を交換して、構築していくものと考え。よって、話し合う団体、各方面の方から代表意見を述べる、そういった団体が必要ではないか。専門家の方が検討するのは重要だが、地域の方が必要とする者には誤差がある。そういったプロセスが大事である。そういったものが常時あってもよいのではないかと。

事務局：今日の将来像の中にあつたように、住民の方も含めた新たな交通体系を作っていく。住民の意見を踏まえるためにも、そういった話し合いの場も必要である。ふるさとづくり協議会で話し合いの場を設けるなど、いろいろ方法はある。住民のコンセンサスをどのようにとっていくかが必要であり、そういった機会をつくるように検討したい。

参加者：ぐるっとバスの使い方がよくわからない、タクシーがなくなるので、ぐるっとバス

-
- で小回りがきいて、随時行きたいところに行く等、そういった仕組みは出来ないか。
- 事務局：タクシーの代わりをぐるっとバス1台で担うのは、困難である。ただ、今のぐるっとバスの運行形態を見直して、利便性を高める努力をしている
- 参加者：地域で特に困るのは一人暮らしの高齢者である。どの程度独居高齢者がいるのか、調査して頂きたい。益田、萩市内まで行かずとも、近くの道の駅まで行く足が無いのが独居高齢者の課題である。よく調査をして、本当に移動手段がない人をどのように対応するのか検討して頂きたい。善意をもって、ボランティアで対応して頂ける方がいないか、行政が調査して欲しいような仕組みを検討して頂きたい。
- 事務局：きめ細かい、高齢者が移動できる仕組みをどのように考えていくか。ぐるっとバスだけではとても足りる状況ではない。交通空白地では、デマンドによる対応、あるいは福祉の関係で、公用車も配置する、あるいは地域の団体が登録して、交通事業者を運営する方法等がある。住民間の支えあいで、高齢者の人が外出できる仕組み、あるいはコミュニティ・近所の助け合いも一つの手段と考えている。それぞれの地域で検討したい。また、移動時の料金は、謝礼の範囲では、受け渡し可能な場合もある。違反行為にはならないので、コミュニティの一つの助け合いになると考えられる。
- 参加者：先ほどの意見は非常に大切。これから先、運転が出来なくなる人が増える。最初の検討が一番大事である。ぐるっとバスの人数は一日何人ぐらいか。
- 事務局：一便あたり、下田万は2.5人、江崎は1.1人乗車している。上田万は0人と今年度の利用が少ない。一日当たりの利用者数は、別途算出をしているものの、定時定路線とデマンド運行の利用状況の比較の意味もあるため、資料には一便あたりの利用者数を示している。ご指摘の通り、デマンド運行は、予約を受けて運行しているため、一便あたりの利用者数よりも、一日あたりの総利用者数が重要な指標である。1日あたりの利用者数も確認しながら、運行について検討したい。
- ぐるっとバスは萩市が実施し、運行している。この先、タクシーに変わるものが必要であり、ぐるっとバスも1つの手段である。多少時間の区切りは必要だが、ぐるっとバスの利便性を上げる必要がある。また電車の時間に合わせた運行など総合的に考えながら検討を進める。
- ぐるっとバスの利用の仕方が分からない人も多いので、須佐地区では、民生委員の方が劇をする形で予約方法を説明する取り組みを実施している。このように知ってもらう機会を作っていくことも必要である。
- 参加者：自分の家から道の駅に行くことが出来ない、それが問題である。一日の時間を細かにして、予約して家の前まで来るような対応としてはどうか。高齢者が、どのように困っているのか、まずは実施してみて、変えていけるとよい。そういう形で運行していく必要がある。3年先のことを考えて、段階的に検討していくなど、現状を踏まえて検討をお願いしたい。
- 事務局：ぐるっとバスの在り方も、そういった視点で継続的に検討していく。
- 参加者：たまらぼを運営しています。お願い事となるが、利用者が増えている状況で車両が足りなくなることが懸念される。市でハイエースを購入されたのであれば、利用できないか。使わせていただくと助かる。こまわりのきく車があるとよい。
- 事務局：ご意見、ご要望は、福祉担当課にも伝える。

4. 閉会

事務局：様々なご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上